

第一一節 へき地教育をどのように進めたか

文部省では小さい学校の学力向上の具
体策の一つとして複式学級の指導法講習
会を開き、算数と国語の同題材と国語の
同題材指導法による試案を作成した。そ
れについての実践発表を山口県で十六個
所の会場を設けて行った。

本県では山村教育研究会の各支部にそ
の研究をすすめ全体的会場として
岩瀬郡湯本小学校辰見沢分校
(十月二十九日)

耶麻郡興川小学校弥平四郎分校
で実施した。この同題材指導をどのよう
に実施するかについてはまだ趣旨が徹底
していないようである。これは今後じゅ
うぶん研究し、それらの研究と指導が今
後の問題である。

県下の山村教育研究会は各支部で実施
したようであるが、伊達・安達・相馬郡
の実施状況は良好であった。

第一二節 特殊教育をどのように進めたか

一 精神薄弱児教育

昭和三十三年四月一日付で、つぎの八
学級が新設され、既設のもの合わせて
二十四学級になった。

- 1 郡山市立芳山小学校
愛護学級(担任 鈴木 カヤ)
- 2 同右
愛護学級(担任 河野 功)
- 3 須賀川市立第一小学校
愛護学級(担任 矢吹 哲男)
- 4 須賀川市立第二小学校
愛護学級(担任 椎名カツイ)
- 5 相馬市立中村第一小学校
愛護学級(担任 青田 秀穂)
- 6 同右
愛護学級(担任 佐藤 亘)
- 7 福島市立福島第四中学校
愛護学級(担任 菅野キミヨ)

伊達郡霊山町石田小学校の小さい学校
経営は教室環境をよく整備されてるよい
学校である。相馬郡の大倉小・中学校で
の研究会で十年ほど、山村へき地に家族
ぐるみで教育している三浦ミサオ教諭の
精進は実に涙ぐましいものがあつた。

県下全体の山村教育研究は南会津郡檜
原小学校で行われた本県のへき地教育に
てい身する百四十名余の教員の参集によ
つて二日間へき地の問題について討議さ
れた。文部省からは小川武正先生が講師
先生として御出になられて山村に勤務す
る教師のあり方についてのご講演があつ
た。

本県のへき地には行財政上の問題が第
一に解決すべき多くの問題点であるよう
にみられ、そのつぎが指導上の問題であ
らう。

- 8 愛護学級(担任 菅野キミヨ)
須賀川市立第二中学校
愛護学級(担任 富塚 隆人)
右のようにいっきょに八学級の増設をみ
たことは、精神教育に対する県内の認識
がしだいに高まってきていることの証拠
であると思われる。
精神教育についての、全県的な研究会
は二回もたれた。その大要をつぎにあげ
る。

- 1 精神薄弱児教育研究会
時 三十三年九月十四日
所 福島市立福島第四小・中学校
主催 福島県精神衛生研究会
主題
(1) 精神薄弱児教育における教育課
程について
(2) 精神薄弱児教育における指導記
録について
参会者 精神学級担任者の参集を求め
たが、ほとんど全員参集した。
- 2 特殊教育研究会
時 三十三年一月二十六日
所 郡山市立芳山小学校
主催 県教委事務局
主題
(1) 「福島県手をつなぐ親の会」の
結成
(2) 「福島県手をつなぐ親の会」の
結成
(3) 「福島県手をつなぐ親の会」の
結成
精神学級の設備費補助金が、昭和三十
二年度からはじめて交付されることにな
つた。本県への割当ては三十二年新設
学級四、既設学級一、でつぎのとおりで
ある。

新設

- 1 福島市立福島第四中学校(四一、〇〇〇円)
- 2 郡山市立芳山小学校(四一、〇〇〇円)
- 3 須賀川市立第二中学校(四一、〇〇〇円)
- 4 相馬市立中村第一小学校(四一、〇〇〇円)
- 既設
1 警城市立小名浜第一小学校(四〇、〇〇〇円)

二 肢体不自由児教育

肢体不自由児学級は、平市立第四小学
校(三学級)と平市立第一中学校(一学
級)に設置されている。これは福島整肢
療養園の施設になつてゐる。
県内に、もっと、この種の学級が増設
されることが望ましい。

三 身体虚弱児学級

身体虚弱児学級は、坂下町立坂下小学
校(一学級)と喜多方市立喜多方第一小
学校(二学級)とにおかれてゐる。現
在、この種特殊児童は以外に多く、三十
三年度には、大熊町、郡山市、須賀川市
などに特殊学級が設置されるきざしがう
かがわれる。

四 盲ろう教育

昭和三十一年の十一月に火災にあつた
福島盲ろう学校は、福島市森合の仮校舎